

2010年10月9日

第3回日中戦争史研究会報告

菊池一隆

はじめに

私の従来の研究を基盤に、アジア・太平洋戦争期（1937～45年）における地球規模の華僑の動態と構造を解明するための一環として、今回はアメリカ華僑に切り込みたい。その際、①華僑の歴史が最も古く、人口の多い西海岸のサンフランシスコが重視されてきたが、それだけではアメリカ華僑（ほとんどが広東幫）を一面的にしか明らかにできないとの認識から、もう一つの大きな柱として東海岸の大都市ニューヨークを設定する。アメリカ華僑は異質な二つの心臓を有していたと考えられるからである。そして、アメリカ華僑動態に二極からアプローチする。②抗日献金の活動、特質を明らかにするが、今回は、金額よりも、むしろその仕組みや問題点に焦点を当てる。③中国国民党に対するアメリカ華僑の姿勢と同時に、むしろニューヨークでは致公堂・司徒美堂に光を当てる。④アメリカ社会における華僑の受容・華僑の地位向上を移民排斥法とからめて分析する。そして、⑤アメリカ、特にニューヨーク華僑がどのように蒋介石・国民党を切り捨て、中国共産党（以下、中共）支持へと傾斜していったのかを明らかにする。では、アジア・太平洋戦争期のアメリカ華僑の動態を、多角的な視点から考察し、新たな歴史的断面の開拓を模索したい。

なお、史料的には、国民党の『中央日報』、中共の『新華日報』はもちろん、台湾の国史館所蔵の国家档案、スタンフォード大学フーバーライブラリー所蔵の華字新聞を骨幹に日本の外交史料館、アジア経済研究所などで収集したものを主に使用する。

ここでは、とりあえずアメリカ華僑の人口を押さえておきたい（表1）。シカゴ総領事館によれば、アメリカ華僑人口の数字はいわゆる「密入国」問題があり、正確ではないという。「密入国」には幾つかのルートがある。主なものは以下の通り。

①海員上陸。海員のアメリカ上陸に関しては法律に禁止する明文はない。ただし上陸後、職場に復帰しなければ、汽船会社は罰金を受ける。それ故、汽船会社は逃亡海員数の実数を報告しないため、その調査は困難である。移民局の報告によれば、一九一三、四年には、中国人海員の密入国が各年三万人以上であり、二二年には毎月平均一二五～一五〇人、二三年密入国海員がニューヨーク一帯に二、三千人はいるとする。

②「海道私運」（一般密入国者の船での運送）。メキシコ、キューバ、および南米各国を経て来る者が多いが、直接中国から来る者もいる。一般的に大きな船でアメリカの公海上まで来て、ここで小船に乗り換え、密かに上陸する。あるいは船の貨物室に隠れ、機に乗じて上陸する。例えば、三四年一月連邦麻薬捜査官が荒野の小屋に匿われている中国人一八人を発見した。これら中国人は約一カ月前に中国を離れ、まず南米のトリニダードトバコで船を乗り換え、バージニアの海岸に上陸し、その後、トラックで運ばれてきた。中国からの密入国運賃など、一人当たり一〇〇〇～一五〇〇米ドルであった。元来、密入国

の中国人グループは三八人で、一部はすでに移動し、内、四人は途中で病気を患ったため、海に投棄したという

③越境。カナダ、メキシコからアメリカに越境する中国人の人数が非常に多い。当時、メキシコで排華が激烈であったことが背景にある。こうして、不法滞在の場合、アメリカ政府による戸口調査、中国公館による登録に応じず、一旦移民局に発見されれば、強制送還されるため、隠れている。こうした事実を踏まえて、シカゴ総領事館はアメリカ華僑人口を以下のように推定する。

①一八八〇年には、米中条約により華工のアメリカ入国は合法であり、一八八二年の「禁止華工条例」以前は隠れる必要がない。したがって、一八八〇年のアメリカ政府による戸口調査での「華僑一〇万四四八六人」は基本的に正確である。一九一三年から一九三二年は年平均の中国人の入国者が「九六〇人」、出国者が「九一五人」で（入国者が若干上回り）、またアメリカ出生華人、死亡華僑数もほぼ匹敵する。これらから推定すると、アメリカ華僑数は一八八〇年より増大し、三五年段階は「一〇万四〇〇〇人以上」（一〇万四四八六人以上）となる。

②一九三〇年アメリカ政府の戸口調査によれば、アメリカ華僑の中国出生は「四万二八〇九人」とある。この数が合法的に入国した華僑数と見なすと、非合法入国の華僑とアメリカ生まれ華人を加算すれば、総数が導きだせるはずである。

(イ) サンフランシスコ：アメリカの戸口調査によれば、「九〇〇一」人（中国出生）である。サンフランシスコ総領事館の報告によれば、「一万五〇〇〇人余」である。ところが、中国人街以外に華僑は少なくとも四倍おり、「六万」人以上と見積もられる。

(ロ) ニューヨーク：ニューヨーク華僑街、及び衣館、料理屋の華僑が「約一万五、六千人」とされる。この他、料理屋、あるいは家庭での炊事人、車夫、「僕夫」（下男）、商人、及び失業者は一万人を下らない。かくして、「三万人」との仮定も成り立つ。ところが、戸口調査では僅かに「六六二九人」であり、実数は約五倍である。

(ハ) シカゴ：戸口調査では、「一九一七人」であるが、中華会館会員は「六〇〇〇人余」であり、非会員も少なくない。ここで「八〇〇〇人」と見積もっても、戸口調査の四倍である。

- (一) 七・七事変とアメリカ華僑
 - (二) サンフランシスコ華僑の抗日動態
 - (三) ニューヨーク華僑の抗日動態
 - (四) 太平洋戦争の勃発とアメリカ華僑
- おわりに